

ワクチン 情報報告書

MMR ワクチン(麻疹、おたふく風邪、風疹): 知っておくべきこと

1. なぜ予防接種を受けるのですか?

MMR ワクチンは麻疹、おたふく風邪そして風疹を予防することができます。

- ・**麻疹 (M)** は、発熱、咳、鼻水、充血、涙目を引き起こし、その後に全身を覆う発疹が続きます。それは脳痙攣(しばしば発熱も伴う)、耳の感染症、下痢及び肺炎につながる可能性があります。まれに麻疹は脳の損傷や死を引き起こす可能性もあります。
- ・**おたふく風邪 (M)** は、発熱、頭痛、筋肉痛、疲労感、食欲不振、耳の下の唾液腺の腫れと痛みを引き起こします。これは難聴につながることがあります。脳および/または脊髄の腫れ、睾丸や卵巣の痛みを伴う腫れ、そして非常にまれには死にいたします。
- ・**風疹 (R)** は、発熱、のどの痛み、発疹、頭痛、および目の炎症を引き起こします。そして10代の女性と成人女性の最大で半数に関節炎を引き起こす可能性があります。もし妊娠中に風疹に罹った場合は流産、または新生児が深刻な先天性欠損症をもって生まれる可能性があります。

MMRの予防接種を受けたら、ほとんどの人は生涯を通じて予防されています。ワクチンと高いワクチン接種率により、これらの病気は米国ではかなりはるかに一般的でなくなりました。

2. MMR ワクチン

子供は2回のMMR ワクチンの接種が必要です。

通常:

- ・生後12か月から15か月の間に初回接種
- ・4歳から6歳の間に2回目の接種

生後6か月から11か月の間に米国外を旅行する乳幼児は、旅行前にMMRワクチンの接種を受ける必要があります。これらの子供たちは長期間持続する予防のために推奨される年齢で2回目の追加用量を接種する必要があります。

年長の子供、青少年、成人も、もし、まだ麻疹、おたふく風邪、風疹に免疫ができていない場合は、1回か2回の接種が必要になります。あなたが何回接種を必要とするのか、医療提供者に決定してもらってください。

おたふく風邪の発生状況下にある特定の人々にMMRの3回目の投与が推奨される場合があります。

MMRワクチンは、他のワクチンと同時の接種が可能です。生後12ヶ月から12歳までの子供は、MMRVとして知られる1回の接種でMMRワクチンと水痘ワクチンを併用することができます。さらに詳しい情報は、医療提供者に問い合わせてください。

3. 医療提供者に相談する

ワクチンの接種を受ける方が以下の場合は、予防接種提供者にその旨を通知してください。

- ・MMRまたはMMRVワクチンの前回の投与後にアレルギー反応を起こした、または重篤で生命を脅かすアレルギーがある
- ・妊娠しているか、妊娠しているかもしれないと思う妊娠している方はMMRワクチンを受けるべきではありません
- ・免疫系が弱くなっている、または遺伝性または先天性の免疫系の問題の病歴を持つ親、兄弟姉妹がいる
- ・打撲傷や出血しやすい状態になったことがある
- ・最近、輸血、または他の血液製剤を受けた
- ・結核がある
- ・過去4週間以内に他のワクチンを接種した

場合によっては、医療提供者は先の来院までMMRワクチン接種を延期することを決定するかもしれません。



ワクチン情報報告書の大半は、スペイン語と他の言語にてご利用できます。
www.immunize.org/vis を御参照ください。

Hojas de información sobre vacunas están disponibles en español y en muchos otros idiomas. Visite www.immunize.org/vis

風邪などの軽度の病気の人は予防接種を受ける可能性があります。中等度または重度の病気の方は通常、回復するまでMMRワクチンの接種は待つべきです。

さらに詳しい情報は、医療提供者に問い合わせてください。

4. ワクチン反応のリスク

- ・注射を受けた場所の腕の痛み、発熱、および軽度の発熱がMMRワクチン接種後に起こることがあります。
- ・頬や首の分泌腺の腫れや関節の一時的な痛みやこわばり(主に10代または成人女性)は、MMRワクチン接種後に時々起こります。
- ・より深刻な反応はめったに起こりません。これらには脳症攣発作(しばしば発熱に関連する)が含まれることがあります。または異常な出血や打撲瘡を引き起こす可能性のある一時的な血中の血小板数の減少。
- ・深刻な免疫系の問題を抱える人の中にとってはこのワクチンは感染を引き起こす可能性があります。深刻な免疫系の問題を持つ人は**MMRワクチン**を接種するべきではありません。

時として、ワクチン接種を含む医療処置の後に失神する。めまいを感じたり、視覚の変化や耳鳴りを感じたりした場合は医療提供者にお伝えください。

他の薬と同様に、ワクチンが重度のアレルギー反応、他の重傷、または死を引き起こす可能性は非常にまれです。

5. 深刻な問題が生じた場合はどうすればよいでしょうか?

アレルギー反応は、ワクチンの接種を受けた方が診療所を出た後に起こることがあります。重度のアレルギー反応(じんましん、顔や喉の腫れ、呼吸困難、急速な心拍、めまい、または衰弱)がみられる場合には、**9-1-1**に電話し、その方を最寄りの病院にお連れ下さい。

その他の懸念事項については、医療提供者にお電話をおかけください。

副作用はワクチン有害事象報告システム(VAERS)に報告する必要があります。あなたの医療提供者は通常、このレポートを提出しますが、あなた自身で行うこともできます。

www.vaers.hhs.gov のVAERSウェブサイトをご覧いただかずか、**1-800-822-7967** までお電話ください。VAERSは反応を報告するのみの機関であり、VAERSのスタッフは医学的アドバイスは提供いたしません。

6. 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム(VICP)は、特定のワクチンによって負傷した可能性のある方々を補償するために作成された連邦プログラムです。ワクチン接種による傷害または死亡の申し立てに関する請求には提出期限があり、最短で2年になる場合があります。www.hrsa.gov/vaccinecompensation のVICPウェブサイトにアクセスするか、**1-800-338-2382** にお電話し、プログラムと請求の提出についてお調べください。

7. もっと詳しく知るには?

- ・医療提供者にお問い合わせください。
- ・お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ・食品医薬品局(FDA)のウェブサイトでワクチンの添付文書と追加情報をご覧ください。
www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines
- ・疾病管理予防センター(CDC)にお問い合わせください。
 - **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** または
 - www.cdc.gov/flu のウェブサイトをご覧ください。

